

新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

鳥インフルエンザと野鳥を見つけたときの行動についての理解を深めよう！

今回の「鏡川流域パートナーシップだより」はインターンシップ生の塩田(高知大学農林海洋科学部3回生)が担当させていただきます！今回は鳥が人間に移すことがある病気についてです。大学では農学や畜産学、自然環境について学んでいます。鳥インフルエンザや野鳥に関して関心を持ってもらい、もし見つけた場合の適切な対応について市民の皆様を知っていただきたいと思っています！



●鳥インフルエンザとは

鳥に感染するA型インフルエンザウイルスにより感染した鳥の排泄物や死体、臓器などに触れてしまった場合に**ヒトへと感染すること**を指します。日本では発症した事例の確認はされていませんが、様々な病気を持っているためむやみに野鳥に触れないようにしてください！

外で野鳥のヒナを見つけた場合はどうしたらいいの？

4～7月にかけて繁殖の時期を迎えるため、鳥のヒナをよく見かけるようになる中で、小さなヒナが1羽でいると心配になるのではないのでしょうか？市役所にもこのような問い合わせがよくあります。

しかし、1羽でいるヒナは、「**巣落ち**」や「**巣立ち**」の状態であることがほとんどです。すぐに保護しなければ！とならずに一度下記のことを確認したあと連絡をしたほうが良いか判断をしてみてください



●チェックしてほしい項目

・親鳥がいるか？

遠くから見守っている場合があります！



・巣に戻せるか？

可能な場合、容器等に乘せて戻してあげてください！



・ヒナの状態はどうか？

傷病が見受けられる場合は保護対象となります！



・近くにヒナの敵がいらないか？

草むらのかけや少し高めのところへ移動させましょう！



・ケガをしていても本当に保護しなければいけないのか？

野生動物は自然の中で生きているため、他の動物に襲われたり、気象や環境の条件によって弱ってしまうことは自然なことです。保護の目的であっても捕獲することが動物にとって大きなストレスとなり、かえって弱らせてしまうことがあります。かわいそうだから…という理由で保護することは正しいでしょうか。一度立ち止まって考えてみましょう！



「ぼっちり」の体験チケットを作成しました！

今回学んだことを「ぼっちり」の体験チケットでクイズにしてみました！鳥インフルエンザに関する内容ですので、ぜひチャレンジしてみてください！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android